

[様式2 (汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

提案書	
技術分野	①汚染水貯留-(2)その他タンクに求める要求事項
提案件名	複合遮水構造の鋼製連続壁による汚染水地下貯留槽の提案
提案者	前田建設工業株式会社
<p>1. 技術等の概要</p> <p>汚染水を貯留するには地上部は用地が限られているため、地下空間を有効に活用した鋼製連続壁による汚染水地下貯留槽を提案する。特徴を以下に示す。</p> <p>(1) 形状を円形立坑とすることで、大深度まで対応可能となり、現行タンクに比べて大容量化ができる。</p> <p>(2) 遮水性能向上のため、壁体はコンクリートと箱型鋼矢板による複合遮水構造とする。加えて、箱型鋼矢板のジョイント箱部にはアスファルトマスチックを充填し、継ぎ手部には水膨張止水材を設置する。これにより、ジョイント部からの漏洩可能性を大幅に低減できる。</p> <p>なお、箱型鋼矢板のジョイント部にはあらかじめ止水板を設置し、ドライアップして清掃を行った後、アスファルトマスチックを打設する。</p> <p>(3) 立坑の底版は、コンクリートとベントナイト混合土（もしくはアスファルト）を組合せた互層構造とすることで、遮水性能を大幅に向上できる。</p> <p>(4) 底版コンクリートの下部には碎石層を設け、碎石層からドレーンパイプを引き出すことで底版からの漏水検知が可能。</p> <p>(5) 貯留槽の内側全面には保護シートを設置し、コンクリートへの汚染水の浸潤を防止する。</p> <p>(6) 立坑の上部を覆土することで、用地を有効利用できる。また、別途、屋根を設置して、降雨水の流入を防止することも可能。</p>	
<p>2. 備考</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発・実用化の状況（国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む） 今回提案する地下貯留槽の遮水構造は、廃棄物処分場や汚染土壌対策として多くの実績を保有している。 ・開発・実用化に向けた課題・留意点 アスファルト充填材の耐放射線性能を確認する必要がある。 ・その他（特許等を保有している場合の参照情報等） 止水板付き箱型鋼矢板について特許出願中。 	